

社会科研究部会

I 研究テーマ

「自ら学びとる学習過程の研究」

—思考力、判断力、表現力等をはぐくむ授業の創造—

II 研究テーマ設定の理由

甲教協社会科部会では、「自ら学びとる学習過程の研究」という研究テーマのもと、その時の教育界の潮流を取り上げながら、発展的な研究を行ってきた。ここ数年は新学習指導要領の改訂を踏まえ、

- 習得型学習（知識・技能を習得させるための学習）
- 活用型学習（思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむための学習）
- 探求型学習（主体的な学習、個性を生かす学習）

をバランスよく行うことが生徒の「確かな学力」を育成することにつながると解釈し、授業実践を中心に研究を進めてきた。

26年度の社会科部会では、これらのうち活用型学習に焦点を当てた研究を行った。その理由は以下の3点である。

- ・「平和で民主的な国家社会の形成者を育成する」ために展開される社会科の授業において、「思考力、判断力、表現力等」の育成は必要不可欠な部分であると考える。
- ・言語活動の充実が重要視されているが、社会科教育における言語活動は、表現力の育成に焦点化されると考える。
- ・「習得型学習」「探求型学習」に比べ、指導案や活用資料等が多様であり、情報交換がしやすく、より効果的な研究が推進できると考える。

また、25年度同様にブロック別研究を行い、少人数のブロック制で、機能的な討議や実践的な研究を行うこととした。各校で試行錯誤を重ねた授業実践を提案し、そこから新たな成果や課題点を見い出していくこととした。

III 研究の経過と内容

1 研究内容

- (1) 2ブロックに分かれ、授業案又は研究したものを提案・討議・発表する。
- (2) センター校方式を行い、研究テーマに沿った研究授業を行う。
- (3) 夏季休業中の研究会は、普段個人では研究できないような特別な講演会や臨地研修等を行い、生徒に直接関わるような場所での社会的見識を深める。

(4) 小中合同研究を行う。

2 研究経過

- 4 / 1 1 (木) 第1回 南西中 部会役員の決定, 部会の運営について
- 5 / 1 5 (木) 第2回 南西中 全体集会, 研究テーマの決定, ブロック別会議
- 6 / 1 7 (火) 第3回 南中 ブロック研究1・授業案等の研究
Aブロックは南・西・北西中, Bブロックは東・笛南中が提案
- 8 / 7 (木) 第4回 人材開発センター, アイメッセ
センター校指導案検討, 民族と宗教についての学習会, 夏季全体集会
- 8 / 2 0 (水) 第5回 県防災新館・舞鶴城公園での臨地研修, センター校指導案検討
- 9 / 4 (木) 第6回 北中 小中合同研究会研究授業 北中が実践
- 10 / 2 (木) 第7回 池田小 小中合同研究会研究授業 池田小が実践
- 11 / 4 (火) 第8回 南中 第64次県教研還流報告, ブロック別研究2
Aブロックは北東・富竹・附属中, Bブロックは城南・南西・上条中が提案
- 1 / 2 7 (火) 第9回 朝日小 ブロック別研究報告, 活動の総括, 来年度の基本方針

3 研究授業

(1) 単元名 「経済の成長と幕政の改革」(歴史的分野)

(2) 本時の授業

①題材名 「犬将軍は最悪の将軍か～綱吉の政治を考える～」

②題材に関わる生徒の実態

小学校の教科書においては元禄文化・化政文化・産業・交通等の記述はあるが、綱吉の政治～三大改革についての記述は一切登場してこない。幕府の財政が悪化し、そのための政治改革については、中学校での学習が初めてとなる。

ちなみに2学年111人(当日の出席者数)に江戸時代の人物について簡単なアンケートをとった。

徳川綱吉は約41%が知っていると答えた。極端な動物愛護令である、生類憐れみの令の印象があるからであろう。吉宗に関してはドラマの影響もあり、知名度は高いかもしれないが、何をしたかの問いには全くといって良いほど答えられていない。小学校での学習がない状態でどう授業を組み立てていくのかを工夫し、新しいものを学びとる姿勢を大事にし、小中学校連携を意識して江戸時代の学習を深めていきたい。本時では、生徒の思考力、判断力、表現力を育むために、次の項目を授業に取り入れた。

・資料をもとに考える場面の設定

複数の資料を提示し、それらを組み合わせながら、一つの結論を導く過程で、思考力や判断力を育むことができると考える。また、根拠を示すように指示することで、思考を生むことができると考えられる。

・小グループでの活動の導入

小グループでの活動を取り入れることで、自らの考えをきちんと根拠を示しながら発表する「表現力」を育むことができると考える。また、人前で発表することが苦手とする生徒も、小グループにすることによって、自らの考えを発表しやすくなり、すべての生徒に表現力を育む機会を保障できると考える。さらに、他者の意見を聞く中で自らの考えが深まり、思考力、判断力の育成が図られると考える。

③本時の目標

ア 綱吉の政治・経済の政策を理解し、それが人々や社会にどのような影響を与えたのかを積極的に考え、発表したりして、綱吉の政治への関心を高めることができる。

(関心・意欲・態度)

イ 綱吉の政治・経済の政策について、資料をもとに多面的・多角的に考察し、日本の現代社会の問題についてふまえながら、自分の考えを適切に表現することができる。

(思考・判断・表現)

(3) 研究会より

- ・最初の一次評価（当然低評価）が新しい資料を提示することによって、どのように二次評価（高評価になるだろう）が変化するのかが、本時の授業の成果となる。点数に表したことによって、目に見えてわかってよかった。
- ・綱吉の教科書に載っている表の部分と、今回提示した資料の裏の部分の両方が多角的多面的な見方になる。
- ・本時の授業は公民（政治・経済）につながる。
- ・最後の現代社会にどうかしていくかという質問に関しては、中学校2年生でここまでの発想ができるのか、社会的知識の豊富さを感じることができた。
- ・グループ活動においては、一人一人の記述内容がしっかりしていて言語活動が充実していた。
- ・綱吉の政治のプラスの部分とマイナスの部分の葛藤を話し合わせてもよかったのではないか。
- ・授業中の教員と生徒のかかわりを見ていて、大変スムーズで雰囲気良く、人間関係がしっかりつくられていると感じた。

IV 研究の反省と課題

テーマに基づき、思考力・判断力・表現力を育むためにどのように授業を展開させたらいいのか、どのような資料活用方法があるか、などの参考となる事例が多く提案され、実りある研究となった。また、小中合同の授業研究会は、発達段階に応じた社会科指導の重要性を小中部員相互で確認することができ、有意義であった。次年度も、部員の実践力向上に役立つ研究を推進していきたいと考える。